

1 総社市の概要



1 総社市の概要

総社市は、岡山県の南西部に位置し、市の中心部を岡山県の三大河川のひとつ高梁川が南流している。東部は岡山市，南部は倉敷市の県下の2大都市に隣接，西部は井原市及び矢掛町に，北部は高梁市及び吉備中央町に接している。年平均気温は16.5℃前後，雨量は年間1,000mm前後で，瀬戸内海特有の温暖，少雨に恵まれた気候である。

旧総社市は，昭和29年3月に総社町と周辺6村が合併し市制を施行した。当時の人口は36,968人，面積128.37km²であった。その後，昭和47年4月に吉備郡昭和町を編入。旧総社市は平成17年3月21日に閉市し，翌22日に旧総社市・山手村・清音村が新設合併し，新「総社市」が誕生した。現在の人口は約70,000人，面積211.90km²である。

本市は，かつての古代吉備の国の中心として栄えた地域であり，縄文以前から人々が生活していた形跡が見られる。古墳時代には吉備の中心地として栄えたことをうかがわせる数多くの古墳が残されている。

飛鳥・奈良時代には，備中の国府も置かれ，国分寺，国分尼寺も配置され，備中の国の政治・経済・文化の中心地として栄えた。平安時代には備中国内の神々を合祀した総社宮が建てられた。総社市の名称はこれに由来している。

鎌倉時代以降は，地方政治の町から山陽道や高梁川の水運を生かした門前町，宿場町的性格に様変わりするとともに，豊かな農村地域としても発展した。江戸時代には，岡山藩や足守藩など複数の藩領や幕府領など複雑な統治形態となっていた。

高度成長期の昭和40年代頃からは，県南工業地帯の発展に伴い，宅地開発が進むとともに，自動車産業を中心とした内陸工業も発展している。近年では，歴史に培われた吉備文化と高梁川の恵みをはじめとする豊かな自然環境を背景に，住宅都市・学園都市としての発展を見せている。さらに，岡山空港や高速道路，市内に7つの駅がある鉄道などの広域交通網の充実や，岡山市，倉敷市に隣接しており地理的条件に優れていることから，物流や製造業による企業進出が相継ぎ，経済的発展とあわせて人口が増加している。

● 市民憲章 ●

わたくしたちは，美しい自然と豊かな吉備文化にはぐくまれている総社市民です。
このことに誇りと責任をもち明るく豊かなまちをつくることにつとめます。

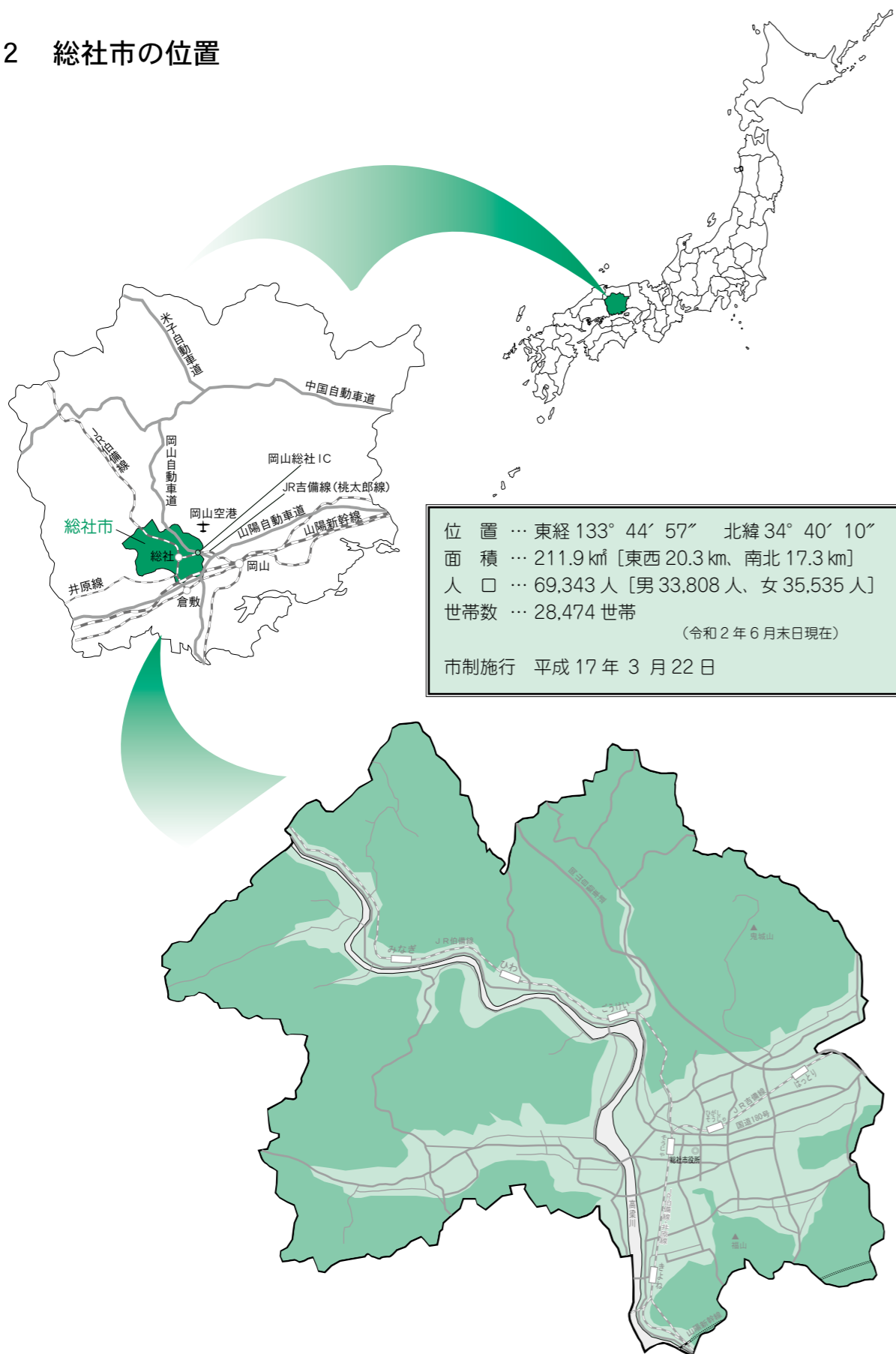
- 1 郷土を大切に 美しい環境を まもりましょう。
- 1 生涯学び 明るい家庭を きずきましょう。
- 1 たがいに助け合い あたたかいまちを つくりましょう。

(平成18年3月22日制定)

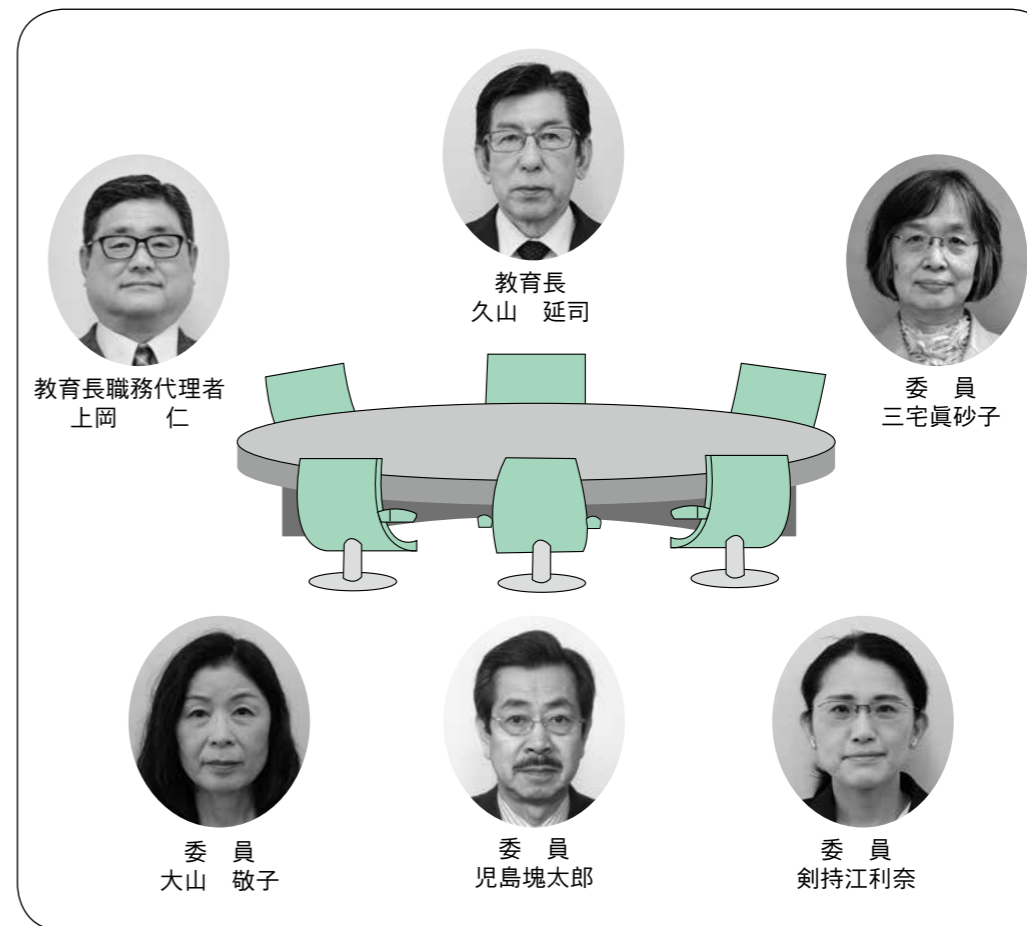


2 教育委員会

2 総社市の位置



1 教育委員



役職名	氏名	任期
教育長	久山 延司	令和 2 年 5 月 12 日 ~ 令和 5 年 5 月 11 日
教育長職務代理者	上岡 仁	平成 29 年 5 月 12 日 ~ 令和 3 年 5 月 11 日
委員	三宅真砂子	令和 元年 5 月 12 日 ~ 令和 5 年 5 月 11 日
委員	児島塊太郎	平成 30 年 5 月 12 日 ~ 令和 4 年 5 月 11 日
委員	大山 敬子	令和 2 年 5 月 12 日 ~ 令和 6 年 5 月 11 日
委員	剣持江利奈	令和 2 年 5 月 12 日 ~ 令和 6 年 5 月 11 日

3 教育関係の予算

令和2年度の教育関係の予算

令和2年度の一般会計予算は、平成30年7月豪雨災害からの復興事業に重点配分された。加えて、これまで本市が取り組んできた「福祉王国プログラム」「ランドデザイン改革」の更なる充実を図る予算、及び地域要望の多い道路の維持補修等に対応するための「地域力再生予算」が計上された。そのうえで、今後予定されている新庁舎建設を始めとする大型事業に向けた緊縮予算とされた。そのような中で、学校の自主性・自立性・独自性を図る学校自由交付金の実施や、「英語特区」「体育特区」「音楽特区」によるひとつづくりなど総社流の施策を展開していく。

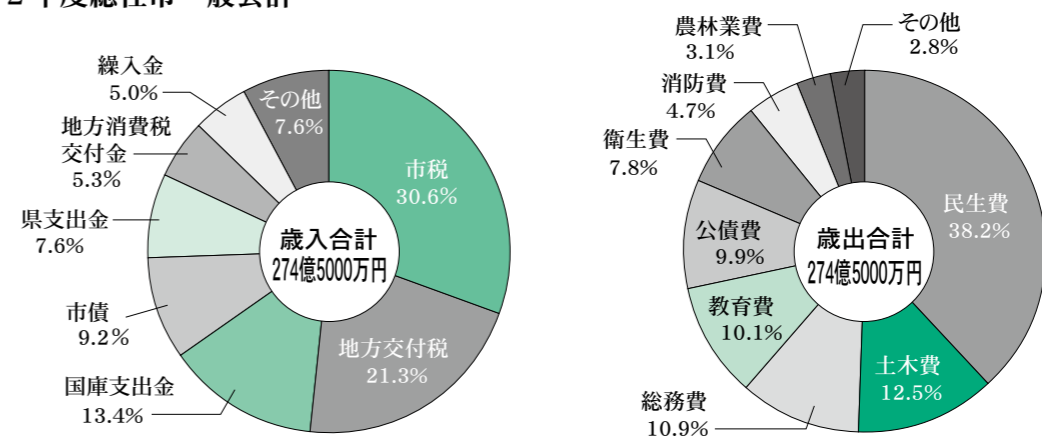
教育費については、27億7945万円（※教育委員会から事務移管したスポーツ、文化・芸術及び文化財関係費を含む。）で、一般会計274億5000万円に対して10.1%の割合を占めている。そうじゃ教育大綱の「総社を愛す子供」「心優しい子供」「礼儀正しい子供」の具現化を目指し、人材の育成、教育施設の整備・拡充、生涯学習の推進などを重点に予算編成している。

主な事業としては、学校力向上・学校適応などに取り組むため各学校の課題に応じた教員の加配、幼小中一貫した特別な英語教育等を提供しコミュニケーション能力や国際的な視野等を身につけた人材を育成する昭和地区等英語教育推進事業、情緒障がい通級指導教室推進事業、池田分館移転新築整備事業、通学路整備事業、災害時に避難所となる小学校体育館のトイレを多目的トイレとする事業、学校自由交付金による学校力向上事業などを実施する。

また、民生費のうち、教育委員会所管の事務に係る予算については、29億9551万3000円で一般会計274億5000万円に対し10.9%の割合を占めている。

主な事業としては、待機児童解消のための保育士等確保策の実施や幼稚園における預かり保育の充実、私立保育所への運営委託事業、障がい児の通所支援事業、放課後児童クラブの運営委託事業など、働く親が安心して働き続けられるよう支援するとともに、保育所・幼稚園・認定こども園の連携により就学前教育の充実を図る。

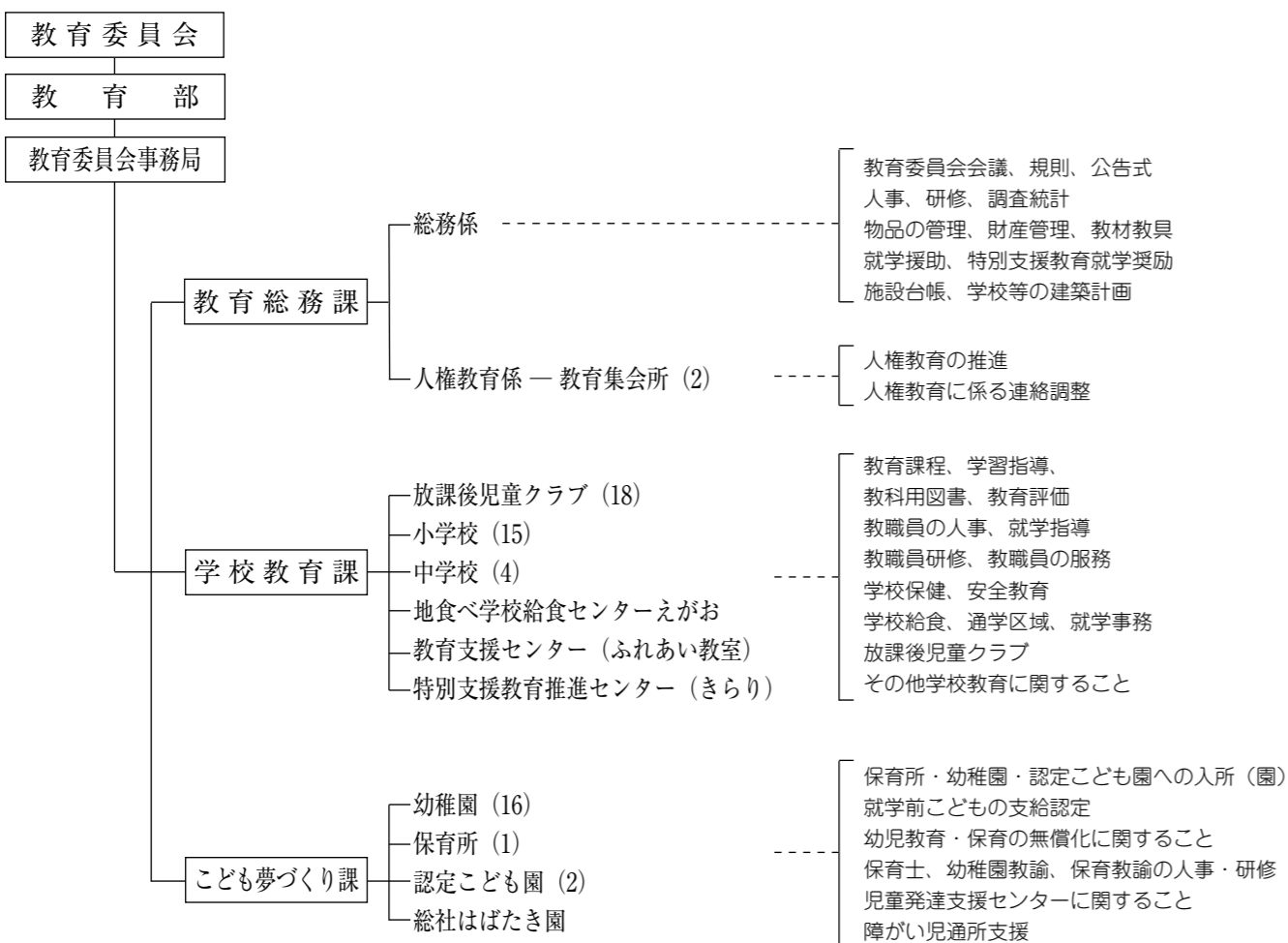
◆令和2年度総社市一般会計



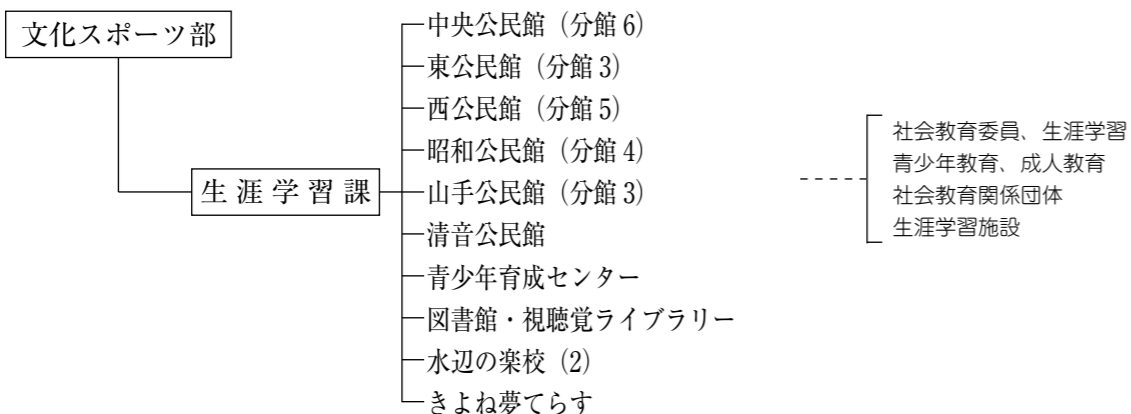
※教育費には、教育委員会から事務移管したスポーツ、文化・芸術及び文化財関係費を含む。



2 機構と事務分掌



【事務委任】



4 教育振興基本計画



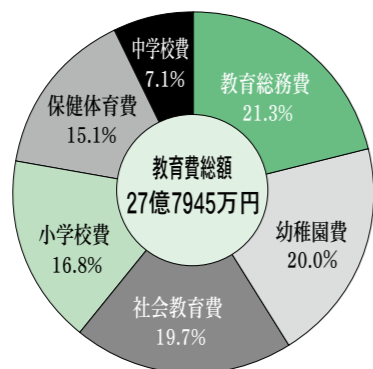
◆令和2年度の教育費（当初）

（単位：千円）

項目	予算額	性質別内訳					建設事業費		
		人件費	物件費	維持補修費	扶助費	補助費等	補助	単独	合計
教育総務費	592,044	411,035	96,382			70,127		14,500	14,500
小学校費	465,259	64,282	292,806	35,500	61,418	1,294		9,959	9,959
中学校費	197,250	23,564	105,332	7,000	54,476	6,378		500	500
幼稚園費	556,072	499,929	37,475	13,750	3,732	986		200	200
社会教育費	548,152	297,088	160,762	7,142		29,036		54,124	54,124
保健体育費	420,677	131,838	247,220	25,000		16,619			0
合計	2,779,454	1,427,736	939,977	88,392	119,626	124,440	0	79,283	79,283

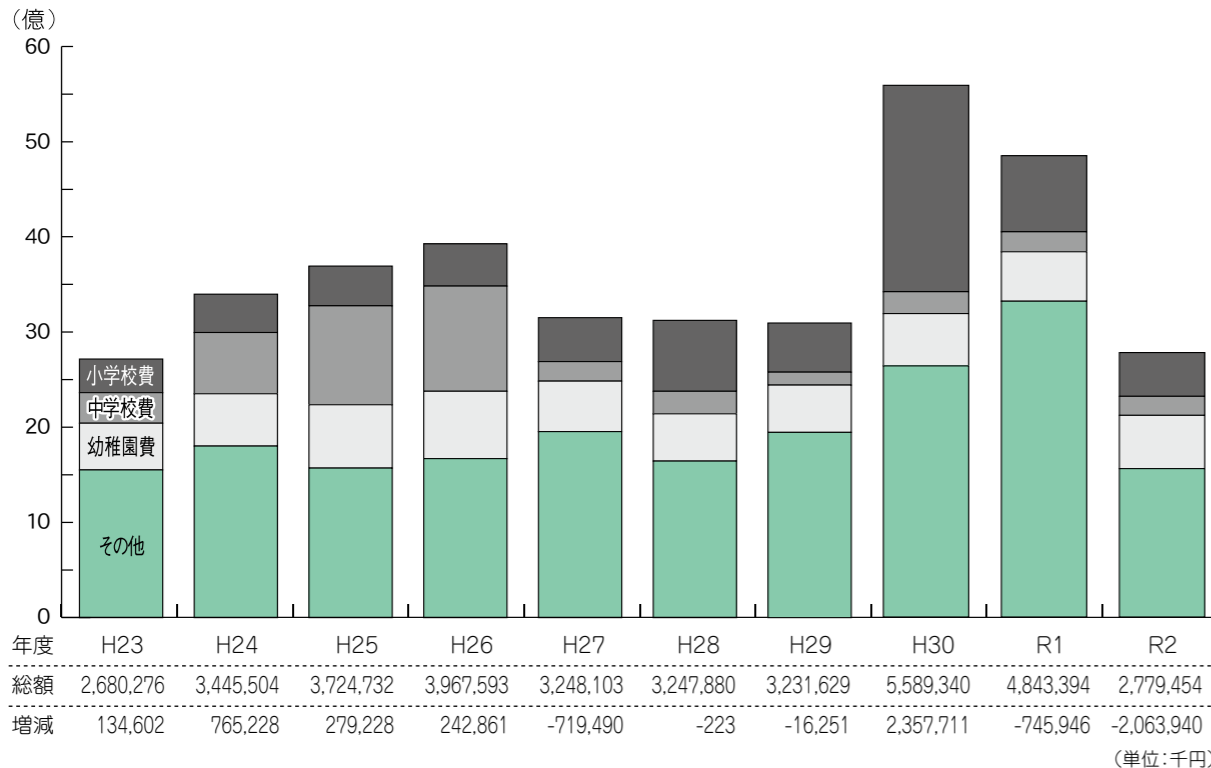
※教育費には、教育委員会から事務移管したスポーツ、文化・芸術及び文化財関係費を含む。

教育費の構成割合



※教育費には、教育委員会から事務移管したスポーツ、文化・芸術及び文化財関係費を含む。

◆教育費の推移



※教育費には、教育委員会から事務移管したスポーツ、文化・芸術及び文化財関係費を含む。



（元気いっぱい積極的に発表する児童たち）

総社市教育振興基本計画

総社市教育委員会が進める事業の基本方針となるのが、教育振興基本計画である。

本市においては、平成27年4月に「そうじゃ教育大綱」を策定し、目指す子供像を「総社を愛す子供」「心優しい子供」「礼儀正しい子供」とした。

この総社市が目指す子供像を具現化するため、第2次総社市教育振興計画（平成30年度から令和4年度まで）では、基本方針として「子育て王国そうじゃ」をさらに深化させる、人間力日本一の「総社っ子」を育てる、家庭や地域の学びを支援する、生涯学び、スポーツを楽しむ環境をつくる、貴重な文化財を守り、文化・芸術活動を身近にする、教育施設の整備と適切な維持管理を実施するとし、教育分野全般にわたっての具体的な取組や目標を定めた。

※スポーツ、文化・芸術分野については、平成31年4月1日から事務移管している。

5 子ども・子育て支援事業計画

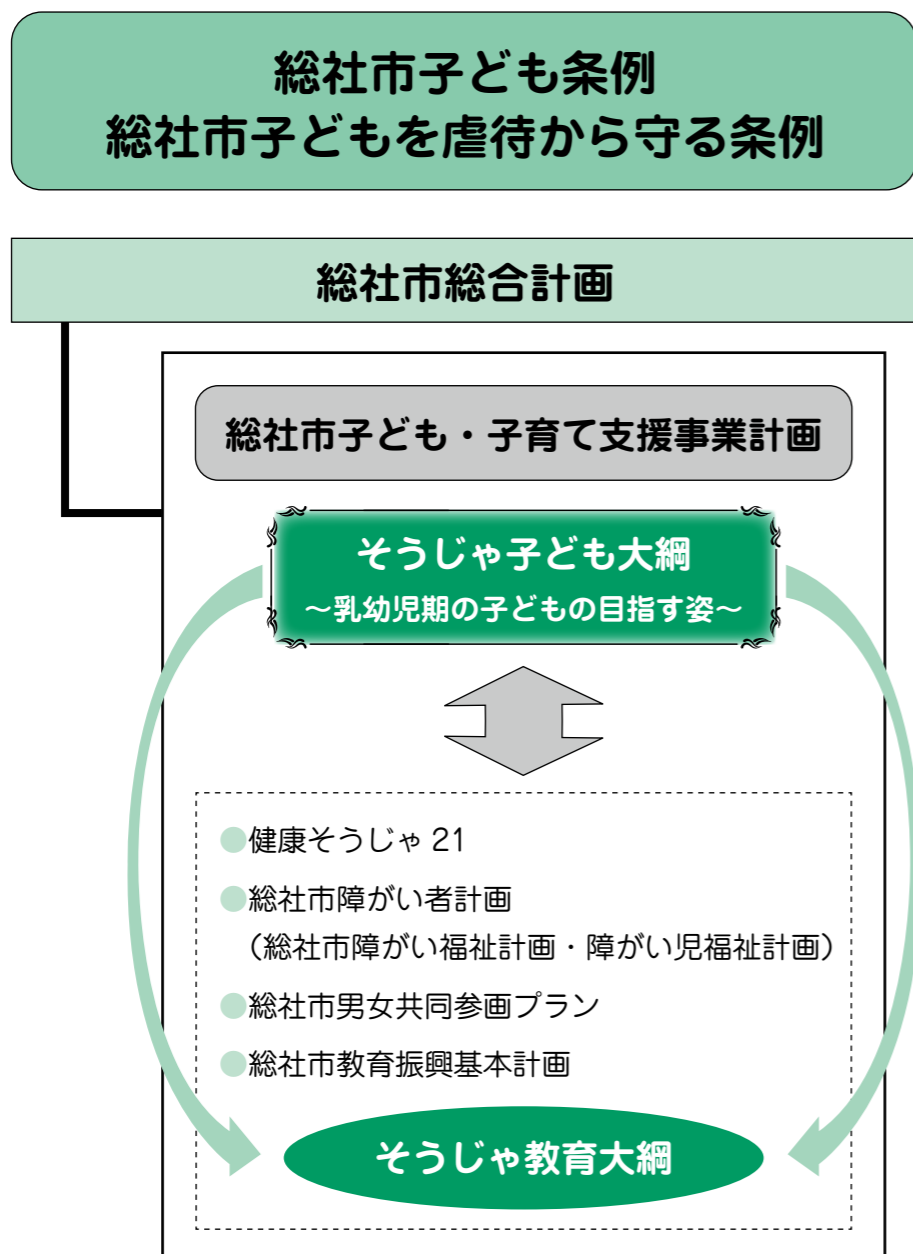


令和2年3月策定の「第2期総社市子ども・子育て支援事業*」では、心の教育に重きを置く「そうじゃ教育大綱」につながる「そうじゃ子ども大綱」を基本理念として掲げました。

※子ども・子育て支援事業計画

5年間の計画期間における幼児期の学校教育・保育・地域の子ども・子育て支援についての需要計画をいい、新制度の実施主体として、特別区を含めた全市町村が作成することになる。(子ども・子育て支援法第61条)

1 計画の位置づけ



2 そうじゃ子ども大綱



(元気いっぱい園庭で遊ぶ園児たち)

